

[社会]

多様な資料を細かく読み取り，関係づけていく社会科授業の工夫

－公共施設建設の経緯を学ぶ授業を通して－

若林 健一*

1 はじめに

小学6年生の社会科では，社会保障・災害復旧の取組・地域の開発などの中から選択して，地方公共団体や国の政治の働きについて学習することが，学習指導要領に示されている。しかし，小学6年生の発達段階において，政治・社会保障・災害復旧などの学習は，日常から遠くかけ離れた内容である。そこで，主体的に学習に取り組むためには，地域にある公共施設見学が考えられる。佐瀬（2004）は，小学校社会科学習において，主体的に考える力を高めるためには体験的な活動を組み入れることが有効であることを明らかにした⁽¹⁾。学年や単元を問わず，体験的な活動は積極的に組み入れていくべきである。だが限られた時数の中で，体験的な活動を組み入れることに限界があるのも事実である。

また，近年の諸調査の結果から，社会科における資料活用能力の育成が求められている。例えば，国立教育政策研究所が小学6年生を対象に実施した調査（2008）では，多様な資料の中から問題を発見・把握する力が不十分であることが示されている⁽²⁾。この調査などをもとに，小西（2011）は「これからの社会科の授業には，資料を読み取ったり調べたりしたことを関連づけて考察し，自分の考えを表現する力を育成することが求められている」とした⁽³⁾。

平成23年度に担任した6年生38名（男子21名，女子17名）の学級は，社会科の学習に対する意欲が高く，基礎的事項の知識・理解に優れた学級であった。その中で，図表やグラフなど資料活用の技能についてより一層の伸びが期待された。そこで，地方公共団体や国の政治の働きについての単元で，見学などの体験的な活動に頼ることなく主体的に学習に取り組む姿を維持しながら，多様な資料を細かく読み取り，関係づけていく学習活動の工夫を試みた。

2 研究の目的

本研究では，地方公共団体や国の政治の働きについての単元で，児童が多様な資料を細かく読み取り，関係づけながら自分の意見を表現するため，どのような資料の提示や支援の工夫が有効であるか明らかにすることを目的とする。

3 研究の方法

上記の目的を達成するために，資料の提示や支援の工夫として有効であると考えられる方法を3つに整理して，小学6年生の社会科『わたしたちの願いを実現する政治』の授業実践に取り組み，その検証を試みた。

(1) 児童が細かく読み取り，関係づけて考えることができる資料の工夫 【工夫1】

本研究の根幹をなす工夫である。前述の通り，小学6年生の発達段階において，地方公共団体や国の政治についての事柄は，児童の日常とは結び付きにくい内容である。身近な問題として関心をもって考えることができる地域教材を設定して，活用する資料も作成する。本単元では，公共施設建設の経緯を学ぶために，施設の概要を読み取るための『完成予定平面図』と地域の実情を考えさせるための『グラフ資料』などを準備した。資料を提示する方法も工夫する。

(2) 提示した資料を素早く正確に読み取り，自分の意見を適切に表現するための工夫

前述の【工夫1】を支えるための工夫である。学習が苦手な児童も含めて，学級全員が提示した資料を素早く正確に読み取ったり，それについて自分の考えを適切に表現したりするための工夫を2つに整理した。

① 提示した資料（グラフ）を素早く正確に読み取るためのスキルの提示 【工夫2】

小学校社会科の授業で，最も多く活用する資料の一つはグラフである。多様な資料（グラフ）を細かく読み取り，関係づけていく活動を支えるために，素早く正確に読み取るための『グラフの読み取りスキル』を提示する。

* 新潟市立白根小学校

② 資料を活用して読み取ったことから、自分の意見を適切にまとめるための支援 【工夫3】

学習が苦手な児童でも、多様な資料を細かく読み取り、関係づけたことを、分かりやすい文章としてまとめることができるようにする。そのため、板書の工夫や『文章をまとめるための表現パターン』の提示をする。

4 実践の概要

- (1) 単元名 小学6年生社会科 『わたしたちの願いを実現する政治』
- (2) 単元の目標
- 高齢者や障がい者のための福祉事業を具体的に調べることを通して、市や県、国の政治は住民の生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解できるようにする。
 - 南区保健福祉センターについて調べ、新潟市の具体的な福祉事業に触れさせることを通して、自分たちの暮らしと政治とのかかわりについての興味・関心を高めることができるようにする。
 - 必要な情報を収集・選択し関係付けて読み取って、住民の願いを生かした「まちづくり」について考えたことをまとめることができるようにする。
- (3) 単元の指導計画（全8時間 本時4時間目）

次	学 習 活 動	時 間
1	新潟市の公共施設の役割を考えさせ、新潟市が住みよいまちづくりを進めていることに気付く。	1時間
	新潟市の歳入と歳出のグラフから、新潟市の税の使いみちについて話し合う。	1時間
	新潟市が「福祉」のためにどんなことをしているのか、新潟市総合福祉会館などをもとに調べる。	1時間
2	『南区保健福祉センター』を取り上げ、施設の建設と南区の実情を結び付けて考える。（本時）	1時間
	『南区保健福祉センター』建設に結び付く市民の願いについてゲストティーチャーの話を聞く。	1時間
	新潟市の福祉事業について、調べたことや気付いたことをまとめて話し合う。	1時間
3	公共施設は、市が建設の計画や予算を話し合い、市議会を通して決定したことが分かる。	1時間
	身近な事柄を取り上げ、これからの「まちづくり」について自分の考えをまとめ、発表する。	1時間

(4) 本時までの授業について

1時間目には、新潟市には様々な公共施設があることを学習した。自分たちが通っている小学校の他、新潟市役所・新潟市歴史博物館・新潟市民芸術文化会館・新潟市民病院・信濃川浄水場などが挙げられた。例えば、歴史博物館は児童生徒が新潟市の歴史を学習するためなど、それぞれの公共施設には建設された理由があることを学習した。

2時間目には、新潟市の税の使い道について学習した。まず、新潟市の予算は3596億円の歳入があることを知り、その内訳には市税や市債、国や県からのお金があることを知った。次に、新潟市の歳出はどの分野が多いのかについて予想した。資料の読み取りを通して『日本一の福祉都市づくり』を目指して福祉分野がいちばん多いことを知った。

3時間目には、新潟市の福祉事業について学習した。4・5年生に学習した内容を振り返りながら、新潟市では高齢者福祉・障がい者福祉・児童福祉・生活保護などの分野で、様々な事業が行われていることを確かめた。そして、新潟市の福祉事業の拠点となっている新潟市総合福祉会館について学習した。まず、新潟市総合福祉会館のパンフレットや館内案内図などを活用して、この施設が主に高齢者と障がい者のために建てられたことを確かめた。次に、機能訓練・リハビリ・歯科指導室・調理実習室・多目的トイレなど、福祉関係の用語や施設の使い方などについて学習した。

5 本時の概要

- (1) 本時の目標
- 完成予定平面図やグラフを読み取り、『南区保健福祉センター』が主に高齢者や障がい者のための施設であり、南区に必要な施設として建設されることに気付く。
- (2) 本時の構想と活用する工夫

本時は、当校の隣接地で建設が進む『南区保健福祉センター』を取り上げ、この施設の概要と建設された背景について学習する。まず、『完成予定平面図』を細かく読み取り、誰が何をするための施設なのかを調べる【工夫1】。検診問診室・機能訓練室などの部屋があることから、主に高齢者や障がい者のための施設ではないかと予想する。次に、新潟市南区の高齢者・障がい者人口のグラフを細かく読み取り、それぞれ増加していることを確かめる【工夫2】。最後に、施設の概要と地域の実情を結び付け、建設する理由を自分の言葉で分かりやすくまとめさせたい【工夫3】。

(3) 本時の展開

学習活動	○教師の働きかけ ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点
①新潟市の福祉政策を振り返り、南区にも『南区保健福祉センター』が建設されることを知る。	○新潟市の福祉政策について学習したことを振り返ろう。 ・新潟市総合福祉会館を拠点に、日本一の福祉都市づくりを目指している。 ○『南区保健福祉センター』の建設について知っていますか。 ・この写真は学校の隣の工事現場だ。どのような施設ができるのだろうか。	◇当校そばにある建設現場の写真を提示して児童の関心を高め、分かることを読み取る【工夫1】。
②南区保健福祉センターの完成予定平面図を読み取り、誰が何をするための施設なのか、建設された目的を予想する。	◎『完成予定平面図』を見て、誰が何をする施設なのか読み取ろう。 ・「検診問診室」は、お年寄りが健康を確かめるために検査をする場所かな。 ・「機能訓練室」は、障がいのある方がリハビリをするための場所だ。 ・その他にも、多目的トイレやエレベーターなども設置されています。 ・中央区にある『新潟市総合福祉会館』とだいたい同じような施設が多いね。 ・『南区保健福祉センター』は、主に高齢者や障がいのための施設みたいだ。	◇南区保健福祉センターが建設された理由を読み取るため、『完成予定平面図』を活用する。提示方法を工夫して、学習効果を高めたい【工夫1】。
③新潟市南区における高齢者・障がいの人口についてのグラフを読み取って、建設理由となる地域の実情について考える。	○主に高齢者と障がいのための施設がなぜ建設されるのようになったのだろうか。 ・南区でも高齢者が増え、そのための施設が必要だという要望があったのかな。 ◎『新潟市南区の高齢者・障がい者人口の推移』についてのグラフを読み取ろう。 ・南区では高齢者人口が増え続け、高齢化率も昨年度は22.7%にもなっている。 ・高齢者だけではなく、身体障がいの人口も増えていることを初めて知った。 ・このような地域の実情が、南区保健福祉センター建設に結び付いているのかな。	◇新潟市南区の実情を知るため、地域のグラフを自作する。グラフを素早く正確に読み取るため、グラフ読み取りのスキルを活用する【工夫2】。
④南区保健福祉センターは主に高齢者や障がいのための施設であり、南区に必要なことを関係づけて文章にまとめる。	○南区保健福祉センターはどのような施設なのか、またなぜ南区に建設することになったのか、自分の意見を文章にまとめよう。 ・南区では高齢者や障がいの人口が増えている。そのため、検診問診室や機能訓練室などがある施設『南区保健福祉センター』が建設されることになった。 ・『南区保健福祉センター』は主に高齢者や障がいのための施設だ。これは高齢者や障がいの人口が増えている地域の実情があるからだと思う。	◇本時の学習内容をまとめやすいように板書を工夫する。モデル文を提示して、これまで学習してきた『表現パターン』を活用させる【工夫3】。

- (4) 本時の評価 ○完成予定平面図やグラフを読み取り、『南区保健福祉センター』が主に高齢者や障がいのための施設であり、南区に必要な施設として建設されることを関係づけ、文章にまとめられたか。

6 本時の実際と考察

- (1) 児童が細かく読み取り、関係づけて考えることができる資料の工夫【工夫1】についての検証

① 児童にとってより身近な地域教材を取り入れたり、資料として写真を活用したりする工夫

授業の導入では、前時に学習した新潟市の福祉政策について振り返った。新潟市は『日本一の福祉都市づくり』を目指して福祉分野に最も予算をかけていることや、『新潟市総合福祉会館』が新潟市の福祉事業の拠点となっていることについてである。これらの既習事項は本時の学習でも活用するため、教室内にいつでも見やすいように掲示した。

しかし、前時の学習では、中央区にある新潟市総合福祉会館の位置がよく分からない児童も多かった。そこで、より身近な地域教材として『南区保健福祉センター』の学習を設定することにした。本時の最初に提示する資料として、当校の隣接地で建設が進む保健福祉センターの写真を選択して、大型ディスプレイで提示した(写真1)。それを見た児童は「これは学校の隣じゃないかな」とすぐに言い当てたが、どんな施設が建設されているかは誰も知らない。続けて何枚かの写真を提示していくと、画面に吸い寄せられるように児童が注目する。さらに写真を拡大すると、「そこに看板が見えるね」とある児童が気付いた。その看板を拡大すると、



写真1 施設の工事現場

【南区保健福祉センター建設工事 発注者：新潟市長】などの項目を読み取ることができた。すると、別の児童から「どんな施設が建設されるのか調べてみたい!」という声が上がった。中央区にある総合福祉会館の学習では聞かれなかった反応である。資料としての写真の有効性や、同じ新潟市内でもより身近な地域教材を選択することが、児童の関心を高められることが検証できた。

② 南区保健福祉センターが建設された目的を調べるために『完成予定平面図』を活用する工夫

こうして写真から読み取った『南区保健福祉センター』という名称から、どんな施設なのか予想させた。児童は保健

や福祉という言葉に着目して、「健康に関することや、高齢者や障がい者のための施設ではないか」と予想した。しかし、名称だけではそれ以上の予想はできない。まだ建設途中の施設なので、見学をしたり写真を見たりすることもできない。ここで、総合福祉会館の館内案内図とよく似た『完成予定平面図』という資料があることを知らせた。

すぐに児童は、「早くその資料を見てみたい」と高い関心を示した。

『完成予定平面図』を配布する際には、2つの工夫をした。まず、座席が隣同士の2人に1枚ずつ配布をしたことである。これは、資料の読み取りに時間がかかる児童への配慮や、資料を通した児童同士の学び合いによる効果を狙ったからである。次に、資料を3階・2階・1階と3枚に分けて配布をしたことである。これは、最後まで児童の関心を維持することや、学級全体の学習進度を揃えて、納得しながら学習できることを狙ったからである。

まず、3階の資料を配布すると、「総合福祉会館の館内案内図にそっくりだ」という声が聞こえた。前述のように、『新潟市総合福祉会館』についての学習でも、同じような館内案内図を準備して施設の概要を読み取り、『検診室・リハビリ室』などの写真を見ながら福祉関係の用語を理解したりする時間を十分確保した。その学習が活かされ、円滑に資料の読み取りに入ることができた。最初に「3階にある多目的ホールは、障がいをもった方が運動などをするための場所かな」という予想が出たが、これは総合福祉会館に同様の施設があることを学習済みだからである。「多目的トイレは、障がいをもった方でも使いやすいため」など、次々に予想していく。そして「早く2階も調べてみたい!」と声上がる。

続いて2階の資料を配布した。児童からは「機能訓練室は、障がいをもった方がリハビリをするための部屋だ」「検診・問診室は、高齢者が健康を確かめるために使うのだろう」「歯科指導室は、高齢者が歯の調子を診てもらうための場所だね」と予想が出されていく。機能訓練・問診などの言葉と実際の使用状況のイメージが結び付き、戸惑うこともない。ここまでくると、施設の建設目的が予想できてくる。最後に1階の資料を配布した。「調理実習室は、高齢者でも食べやすい食事の作り方を学ぶ部屋だ」「畳のある茶の間スペースは、高齢者がたくさん使うのだろう」などの予想が出された。その他にも「広い通路は、車椅子を使う人も考えられている」「3階建てなのにエレベーターがあるのは足が不自由な人のためだ」「屋外に避難施設があるのも同じ理由からだ」など、施設全体への視線も向けられた。

以上のように『完成予定平面図』から読み取った内容を、建設目的から分類しながら板書にまとめた。キッズコーナーや保育室などは幼児が対象であるが、主に高齢者と障がい者が対象であることが分かった。こうして「南区保健福祉センターは、主に高齢者と障がい者のための施設であること」を全員が理解した。この『完成予定平面図』は、施設の概要を調べるためなど、焦点を絞って細かく読み取るために提示する資料として大変有効であることが検証できた。配布する際の2つの工夫も有効に働き、主体的な学習活動から見学と同等の効果が得られたように感じられた。

③ 南区保健福祉センターが建設され理由について考えさせるための資料（グラフ）の工夫

第1次では、歴史博物館や新潟市民病院など公共施設には建設された理由があることを学習した。それを踏まえ「なぜ南区に保健福祉センターが建設されることになったのか」を考えさせた。この施設が主に高齢者と障がい者のための施設であることを『完成予定平面図』から読み取った児童からは、「中央区にある総合福祉会館が遠くて通えないのではないか」「南区でも高齢者人口が増えているのではないか」などの予想が出された。この予想を確かめるために必要な資料は何か問うと、「南区の高齢者人口を調べた資料があれば分かるのではないか」という意見が挙がった。

さて、「なぜ南区に保健福祉センターが建設されることになったのか」を確かめるためには、新潟市全体ではなく南区単独の資料が必要である。『完成予定平面図』から読み取った内容と関係づけて考えさせるためには、それと正対した資料が不可欠なのである。そこで新潟市南区役所健康福祉課の協力を得て自作した『南区の高齢者人口と高齢化率の推移』『南区の障がい者人口の推移』のグラフを提示した（資料2）。児童は副読本『わたしたちの政令市新潟』などに掲載された新潟市全体の資料は普段から活用しているが、南区単独の資料はほとんど見たことがない。自分たちの生活により身近な、南区の高齢者・障がい者人口のグラフを前に、普段以上の意欲の高まりが感じられた。



資料1 完成予定平面図

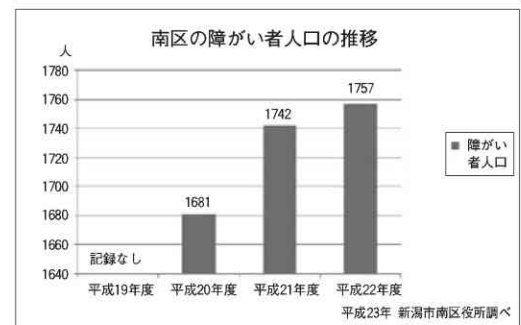
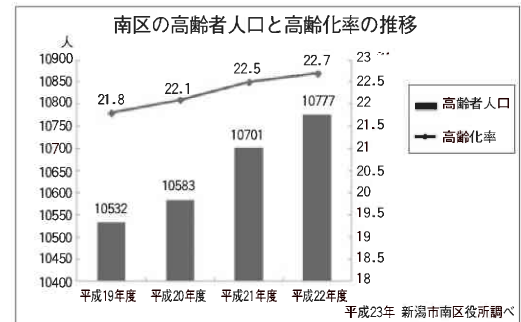
(2) 提示した資料を素早く正確に読み取り、自分の意見を適切に表現するための工夫【工夫2・3】についての検証

① 提示した資料（グラフ）を素早く正確に読み取るためのスキルの提示【工夫2】

この学級では資料活用の技能についてより一層の伸びが期待されていた。吉田（2010）は、社会科が苦手な児童の多くは、資料をどう見たらよいか分からないことが多いとして、読み取りの指導法をまとめた⁽⁴⁾。根本（2012）は、資料読み取りの手引きを活用することで、資料を細かく読み取ることができるようになったことを明らかにした⁽⁵⁾。これらを参考に、グラフを素早く正確に読み取るため『グラフの読み取りスキル』をまとめ、児童に提示した（表1）。

1	グラフの基礎項目についての確認
①	グラフの表題は何ですか。
②	グラフの年度はいつですか（いつ作られたものですか）。
③	グラフの出典はどこですか（どこが調べたものですか）。
2	グラフの数値についての確認
①	縦軸の単位は何ですか。縦軸は何を表していますか。
②	横軸の単位は何ですか。横軸は何を表していますか。
3	グラフ全体の傾向についての確認
○	全体的に見ると、グラフの傾向はどう表すことができますか。
・	だんだん上がっている ・だんだん下がっている ・ほとんど変化がない
・	突然上がっている ・突然下がっている ・上がってから下がっている
・	下がってから上がっている ・途中で止まり、また上がっている
4	個別の特徴や数値についての確認
①	最も多いのは何ですか（最も多くなったのはいつですか）。またその数値は。
②	最も少ないのは何ですか（最も少なくなったのはいつですか）。またその数値は。

表1 『グラフの読み取りスキル』の項目



資料2 南区についてのグラフ

まず、グラフの表題・年度・出典など、基礎項目について確認した。次に、縦軸と横軸それぞれの単位や示す内容について読み取らせた。そして、グラフ全体の傾向として主に8つのタイプを示して、どれに当てはまるのかを考えさせた。最後に、個別の特徴や数値について細かく読み取っていった。グラフ資料は『完成予定平面図』と同様に、児童同士の関わり合いによる効果を狙って2人に1枚ずつ配布して、指示された箇所を指で押さえながら読み取らせた。

児童は「南区では、平成19年度から3年連続で高齢者人口が増えている」「全国と同じで高齢化率も上がり、平成22年度には22.7%であった」「今後もこの傾向は続いていこう」と読み取り、高齢者のニーズが高まっていることを全員が確かめた。続いて、『南区の障がい者人口の推移』のグラフを提示した。児童の多くは身体障がい者人口の変化はないと予想していたが、「身体障がい者の人口も増え続けている」という新しい情報を得ることができた。

このようにして『グラフの読み取りスキル』を活用することで、学級全員が素早く正確に読み取り、南区保健福祉センター建設に結び付く地域の実情を明らかにすることができた。スキル活用以前と比較して、グラフを読み取るために必要な時間は大幅に短縮された。また、これまではグラフを読み取ることが苦手だった児童も含めて、学級全員が読み取った内容を記述したり発表したりできるようになった。つまり、このスキルの有効性が検証されたとと言える。

② 資料を活用して読み取ったことから、自分の意見を適切にまとめるための支援【工夫3】

最後に再び「なぜ南区に保健福祉センターが建設されることになったのだろう」と問いかけて、授業のまとめを記述させた。しかし、学習が苦手な児童にとっては、これまで細かく読み取ってきた内容を関係づけて、分かりやすい文章にまとめることが難しいことが予想された。そこで、自分の意見を適切にまとめるために2つの支援をした。1つ目は学習内容を関係づけやすい板書の工夫であり、2つ目は『文章をまとめるための表現パターン』の提示である。

まず、学習内容を関係づけやすい板書の工夫である。写真2のように黒板を横3列で構成する。左側に完成予定平面図を読み取る活動を通して「誰が何をするための施設か」調べた内容を、右側に高齢者・障がい者人口のグラフを読み取る活動を通して地域の実態を調べた内容をまとめた。そしてその中間に、発問に対する児童の予想をまとめた。その予想を踏まえて、左右にまとめられた学習内容を結び付けながら、授業のまとめを記述するように指示した。

次に、『文章をまとめるための表現パターン』の提示である。表2に示したように、自分の意見を分かりやすくまとめるための表現パターンを4つに分類して、社会科以外でも各教科の授業で繰り返し取り組んできた。

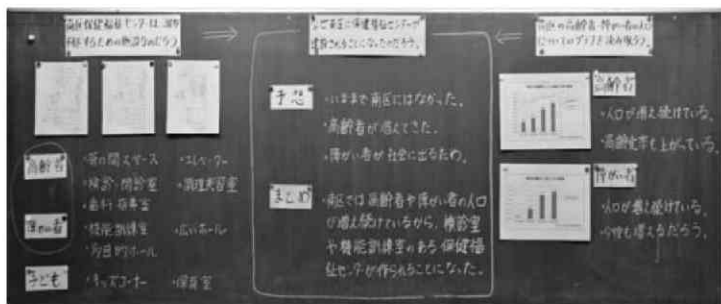


写真2 学習内容を関係づけるための板書の工夫

- | | |
|------------|-------------------------------------------------|
| 1 問答ゲーム方式 | 例：この授業で学習したことが○つある。1つ目は、○○である。2つ目は○○である。このように…。 |
| 2 アウトライン方式 | 例：() という理由がある。だから () だと考えられる。 |
| 3 キーワード方式 | 2～3のキーワードを文章に入れる |
| 4 モデル作文方式 | 教師や児童の手本をあらかじめ示す |

表2 『文章をまとめるための表現パターン』

本時では、表2の中から『モデル作文方式』を取り入れ、学習が得意なA児に手本となる文章例を即興で発表してもらうことにした。A児はアウトライン方式で練習した「() という理由がある。だから () だと考えられる」という型を生かして、「総合福祉会館が遠く、高齢者が増えたという実情がある。また、機能訓練室などが備わった福祉センターがあるとよいという人々の願いがあった。だから保健福祉センターが建設されることになった」とまとめた。

A児のモデル作文を生かして、例えばB児は「中央区にある新潟市総合福祉会館では遠いし、今高齢者や障がい者の人口が増えつつあるという実情から、機能訓練室などの高齢者や障がい者のための施設がそなわった南区保健福祉センターを建設すると思います」とまとめた(写真3)。また、これまで自分の意見をまとめることが苦手だったC児も、「高齢者や障がい者のため保健福祉センターが建てられるのは、南区で高齢者や障がい者が増えていることが理由です」と記述することができた。どの児童も、施設建設の目的と地域の実情という複数の資料から読み取った内容を関係づけ、自分の意見として表現することができている。このように、板書の工夫と『文章をまとめるための表現パターン』の提示により、およそ5分程度で学級全員が意見を記述することができた。学習が苦手な児童も自分の意見を適切に表現できたことから、この支援は有効であったと言える。

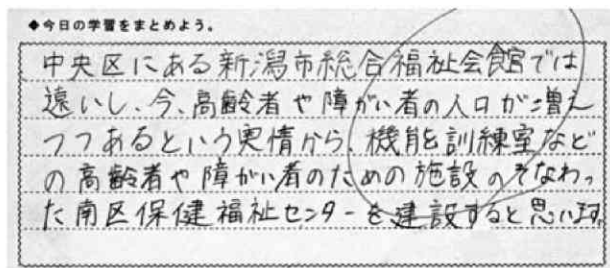


写真3 B児による授業のまとめ

7 おわりに

この実践から、提示資料や支援方法の工夫を行うことで、児童が多様な資料を細かく読み取り、関係づけながら自分の意見を分かりやすく表現できることが分かった。提示する資料は精選することが必要で、児童が関心をもてる地域教材を取り入れることが有効であった。その中でも『完成予定平面図』は施設建設の目的などに焦点を絞って細かく読み取らせる資料として大変有効であり、公共施設以外にも工場や商業施設の見学に代わるものとして活用できる。また限られた時間の中でグラフを素早く正確に読み取るための『グラフ読み取りスキル』や、自分の意見を分かりやすく表現するために『文章をまとめるための表現パターン』も有効であることが分かった。但し、南区保健福祉センターには幼児を対象にした施設もある点が省略されたこと、モデル作文方式により意見の幅が狭められてしまったことが課題となった。今後は、資料から読み取った様々な意見をまとめ上げていくための工夫について考えていきたい。

8 参考文献

- (1) 佐瀬智洋「小学校社会科における主体的に考える力を高める学習指導に関する研究」 岩手県立総合教育センター教育研究第160号, 2004, 20-21pp
- (2) 国立教育政策研究所『特定の課題に関する調査(社会)のポイント』2008, 1-4pp
- (3) 小西英生「社会科における、資料を読み取り、自分の考えをもつための指導の工夫」 京都市総合教育センター研究紀要, 2009, 1p
- (4) 吉田高志『グラフや統計資料の読み取りの授業』 明治図書 2010, 18-30pp
- (5) 根本 俊「資料活用能力の育成を図る社会科学習授業の工夫」 平成23年度小美玉市教育論文集, 2012, 4-10pp